

語りのなかの横須賀

—森光司氏の語り 4—

瀬 川 渉*

Yokosuka in Narratives

— Narrative by Mr. Mitsuji Mori(Part 4)—

Wataru SEGAWA

The previous Parts 1 through 3 of this paper took up some narratives made by Mr. Mitsuji Mori, who was born in Yokosuka City in 1936. The previous three Parts covered the narrator's memories relating to his parents' family and home, a village where he was born and sketches showing what the narrator saw in his home village while his childhood, his lives after he got a job at an iron works in Kawasaki, and days of his newlywed.

This Part 4 has taken up Mr. Mori's fourth narrative introducing mainly farming and crops of his parents' home and a Buddhists' annual function named “ B O N ” practiced in an area of Ushigome, Tsukui in Yokosuka, including things we can see only at the timing of the first BON function to be practiced after somebody died, all which are based on the narrator's memories. The sketches were drawn by Mr. Mitsuji Mori and the photos were taken by the author while the research was being conducted in the area directly relating to the narrative.

は じ め に

小稿は、森光司氏の語り 3 の続編であり、光司氏の実家が栽培していた作物や津久井牛込の盆行事を中心にスケッチしたものを掲載する。また、光司氏のスケッチだけでなく現地調査で撮影した写真も掲載する。現地調査は 2012 年と 2016 年に実施した。

スケッチは、すべて光司氏が描いたものであり、ほぼ原画の通りに掲載した。尚、筆圧等が印刷する上で足りない箇所は、瀬川が加筆修正し、光司氏の確認と了承を得た。

* 横須賀市自然・人文博物館 Yokosuka City Museum, Yokosuka,238-0016 Japan.

原稿受付 2016年8月24日 横須賀市博物館業績 第710号

Key Words: Narrative, Event of BON Festival, Function for Spirits of Dead Person, Rice Field, Field

キーワード: 盆行事, オシヨロ, 田んぼ, 畑

図 解 編

【図 1】は、段々状の田んぼに植えられたタノクロのスケッチである。タノクロとは、田んぼの段差部分に接して盛土をし、そこで栽培された大豆のことである。ここで栽培されている大豆は、普通の大豆よりも実が青かった。タノクロを栽培する場所のことを、クロと呼んだ。クロは、5月初めに作りだす。まず、前年のクロを鍬で取り除き、【図 2】で示すカケヤと呼ばれる道具で地固めした後、鍬で田んぼの土を集めてきて斜面になるよう均す。ここまでの工程を終えれば、1番クロとなる。続いて2番クロとは、1番クロが出来上がって2～3週間たった後、斜面の先端を鍬で切り、切った部分の土を上に乗せる。そこに、稲わらをかぶせ、重しとして20から30cm間隔で土をかぶせる。その重しの土に大豆の種を2、3粒植える。牛込では、田植えは7月7日、8日の三浦富士の山開き前には済ませなければならなかった。この田んぼ(35° 12'51.4"N 139° 39'55.3"E)は借りていたもので、現在は果樹園となっているが、田んぼだった頃はイモリやメダカ、ヒルなどの生き物が多くいた。また、田植え作業などの時にトビに狙われたので、手ぬぐいを被って防御したり、トビを見たら木の枝などを投げつけたりして追い払った。タノクロは、黄粉や枝豆のほかに節分の豆まきにも使った。タノクロは、自家の田んぼでも(35° 12'22.7"N 139° 39'35.6"E)作っていた。

【図 2】は、クロを地固めする様子と道具のスケッチである。クロを作る道具は、「カケヤ」と呼び、クロ専用であった。カケヤは、杉の根元をそのまま使用しているため、土をたたく部分は少し太くなっている。

【図 3】は、光司氏の実家(屋号:半十郎)の畑の場所を示したものである。「パラボラ」と書いているところは、現在、総務省関東総合通信局三浦電波監視センターのパラボラアンテナのことである。ここは、昭和10年頃まで光司氏の実家で畑を持っていたが、軍に接收され、近隣地に畑が移転になった。ちなみに、「パラボラ」の畑は、砲台山にあった土地が半分接收され、その代替地として購入した。つまり、2度の接收と代替地への移転があった。栽培野菜された野菜は、図に示したとおりである。牛込に近い畑は、戦前は借りていたものであるが、戦後になって自分の畑となった。畑において、作物と作物の間を仕切るのにサトウキビを植えた。サトウキビは、数は少ないが子どものおやつにもなった。家の敷地内にも畑があり、綿、はぶそ、えいなり、インゲン、みそはぎ、お茶の木が栽培されていた。お茶の木は3本あり、それだけでは自家消費には足りなかったと思うが、足りない分をどうしていたかはわか

らない。

【図 4】は、オショロさまを置く場所を表した図である。牛込では、8月13日から15日のお盆に仏壇に飾ったオショロさまを、きゅうりで作った馬やナスで作った牛のお供え物とともに、16日の朝、特定の場所に置く。海や川沿いの集落では、オショロ流しと言っている行事である。図中のオショロさまと記されている場所(35° 12'33.3"N 139° 39'20.4"E)にオショロさまを置いていたが、2013年頃よりお寺で処分するようになった。なお、ここで示した場所にオショロさまを置くのは、主に牛込の上(うえ)の地区の家々である。しかし、光司氏の実家は牛込の下(しも)地区であるが、光司氏の記憶ではここに置いたという。

【図 5】は、牛込の下地区がオショロさまを置く場所(35° 12'33.4"N 139° 39'33.2"E)である。現在は公園になっている。この場所は三叉路と呼ばれ、村の野菜置き場があり、牛込の農家はここに大根などの野菜を運び、トラックに積み込んだ。野菜置き場の上の階は、集会場になっており、太鼓の練習などをした。

【写真 1】は、牛込の新盆(しんぼん)の家において、庭先に提灯を吊るすための仕掛けである。この仕掛けを用いて提灯を吊るすのは、新盆の家だけである。吊るす提灯は1灯で、薄い青色か白色の提灯を吊るすことが多い。この写真は、2012年の盆、光司氏の兄の新盆のときに撮影した。

【写真 2】は、お盆の時の仏壇である。仏壇の前には、サツマイモやホオズキなど家で採れる作物を吊るし、きゅうりの馬やナスのウシ、オショロさまを飾る。この写真は、2012年の盆、光司氏の兄の新盆のときに撮影した。

【写真 3】は、2016年の盆に撮影した盆棚である。盆棚には、ナスと里芋の茎、みそはぎ、かぼちゃ、ぶどうなどを供える。写真 2 と比べるとゴーヤが増えているが、盆棚に備える野菜や果物は特に決まっていない。ただし、ナスと里芋の茎、みそはぎは必ず8月13日の朝には供える。

【写真 4】は、日が沈む頃に提灯を墓前に持っていく様子を写したものである。提灯は、1つの墓に2灯を吊るす。管理している墓が多いと、持っていく提灯の数も多くなる。

【写真 5】は、日が完全に沈み、提灯が灯る円乗院の墓地である。管理している

墓にそれぞれ提灯を灯し、本家や親戚筋の家には線香をあげに行く。遠方にいてなかなか管理できない分家の提灯を本家が灯すこともある。住職が提灯に魂を入れてから、各家に提灯を自宅に持ち帰る。14日も15日も同じ時間に提灯を吊るしに行き、住職が提灯に魂を入れてから、自宅に提灯を持ち帰る。

【写真 6】は、家に持ち帰った提灯である。昔はロウソクを使った提灯だったが、現在は電球の提灯へと変わってしまった。

【写真 7】は、家に持ち帰った提灯であるが、1つだけ軒下に吊るしておく。寝る頃まで灯しておく。

【写真 8】は、墓に供えたなすと里芋の茎であり、盆棚に供えたものと同じである。これも、13日の朝に供える。

【写真 9】は、庭に植えられたみそはぎである。

【写真 10】は、【図 5】で示したオショロさまを置いた場所を写したものである。

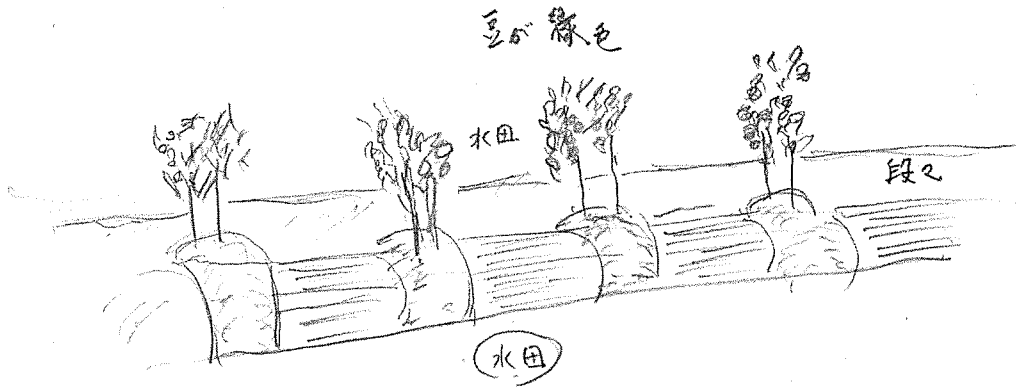
【写真 11】は、新盆の家があったときに、その家で行う「百万遍」の数珠である。これを撮影した2012年は、新盆の家が多く、お寺で行われた。しかし、2016年からは【図 5】で示した野菜置き場上の集会所で行うようになったとのことである。

【写真 12】は、前号の森光司氏の語り3において、【図 8】で示した「だるま船」が停泊していた場所(35° 30'32.5"N 139° 43'22.6"E)を写したものである。

付 記

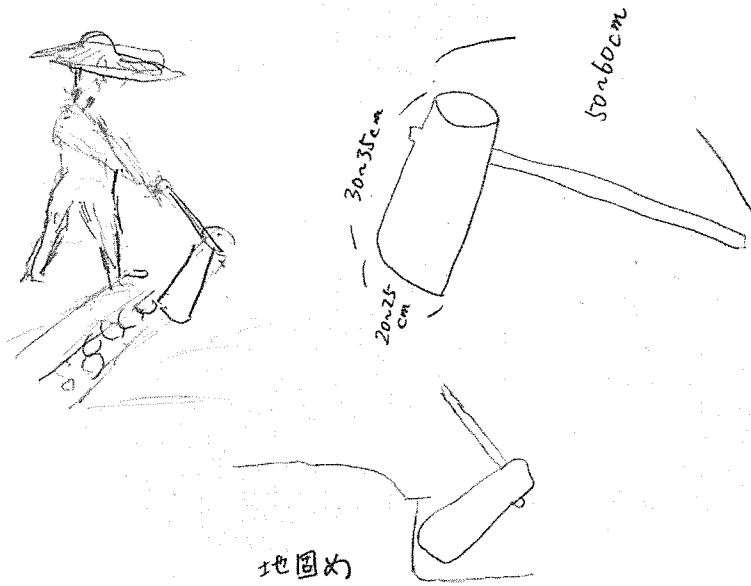
森光司氏には、スケッチだけでなく、牛込の実家の調査や川崎への調査にも同行していただきました。博物館への多大なご理解ご協力は誠にありがたいことです。記して御礼を申し上げます。

図 版

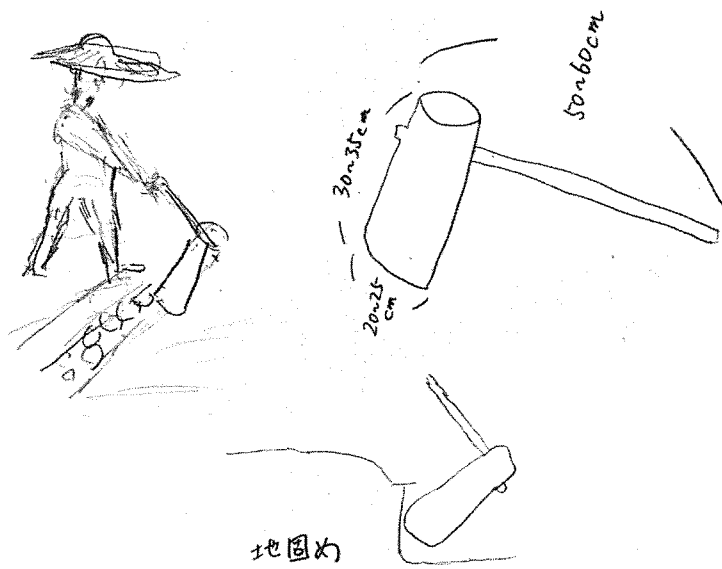


※ナコ、枝豆にした

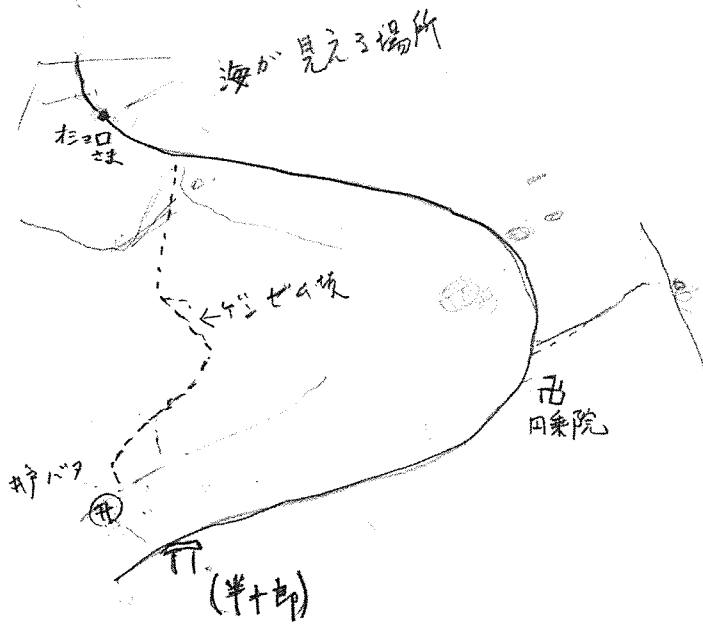
【図1】



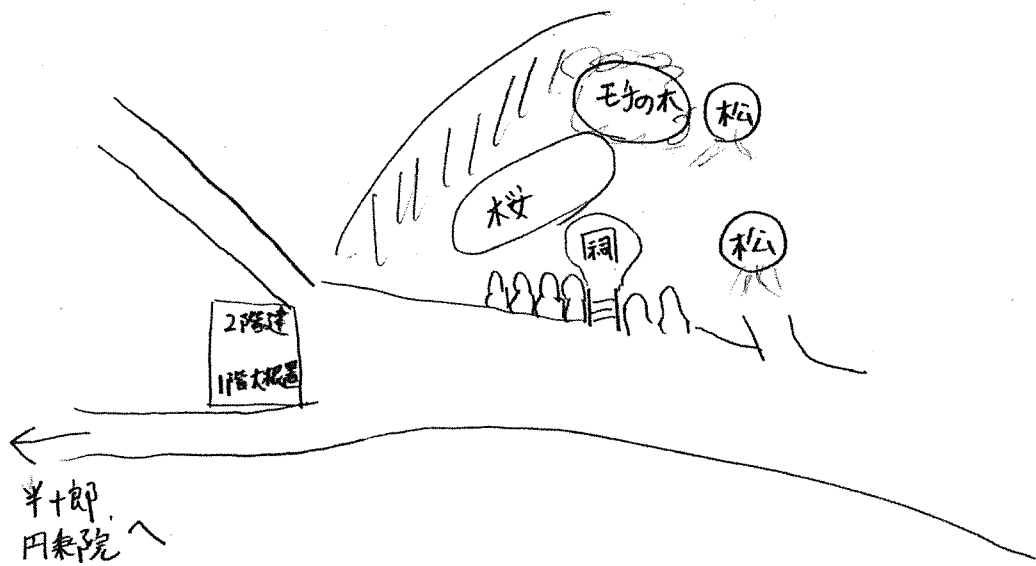
【図2】



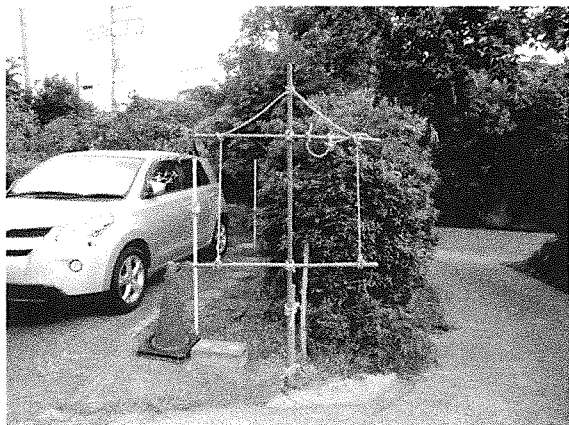
【図3】



【図4】



【図5】



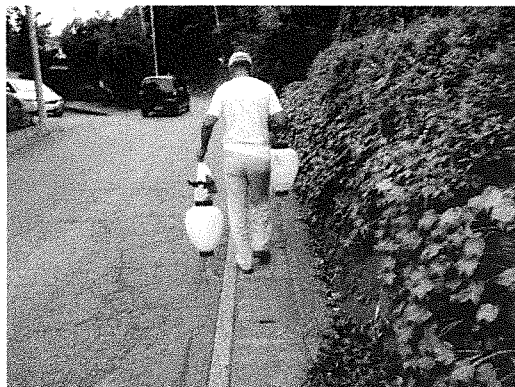
【写真1】



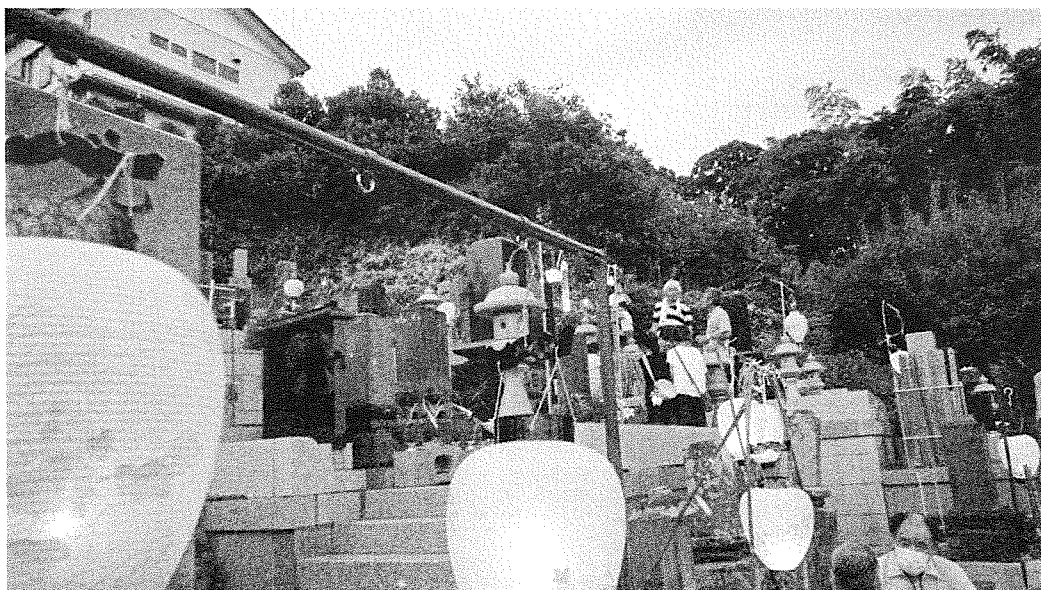
【写真2】



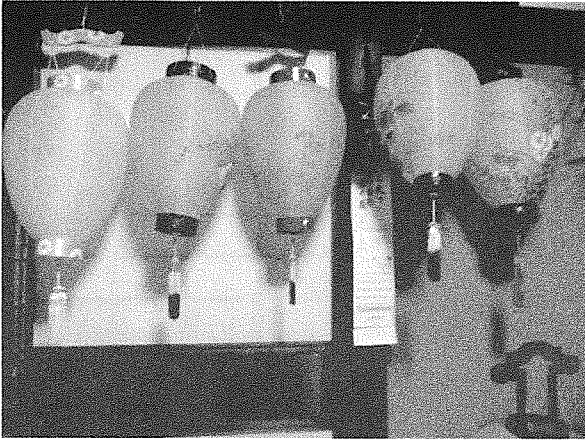
【写真3】



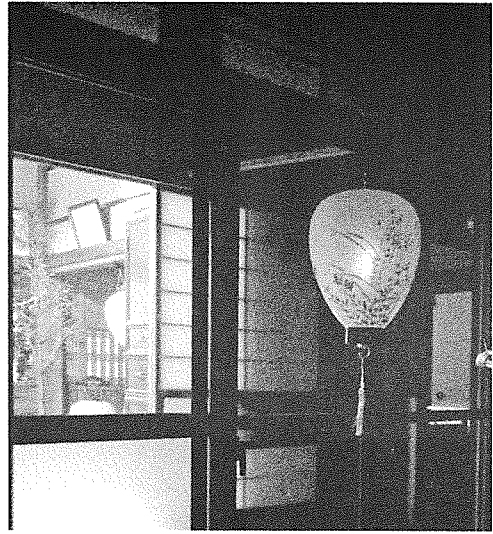
【写真4】



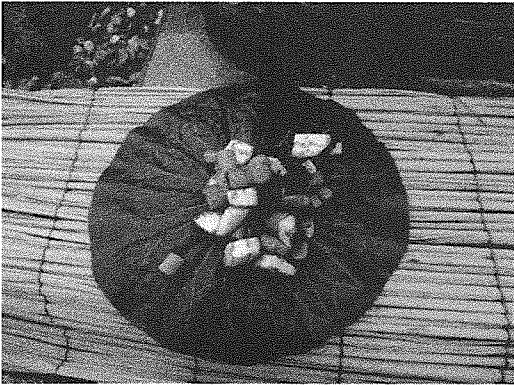
【写真5】



【写真6】



【写真7】



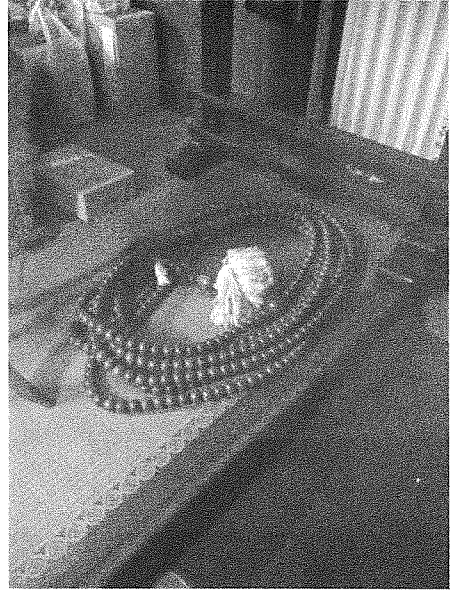
【写真8】



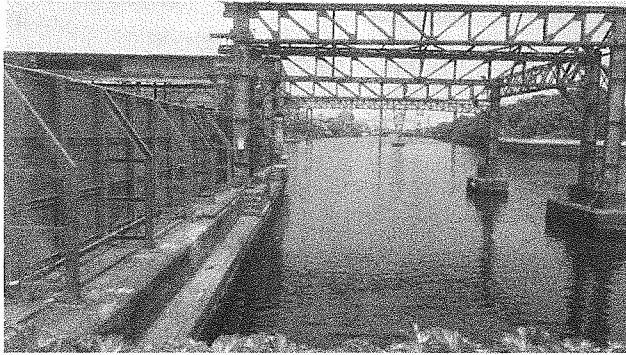
【写真9】



【写真10】



【写真11】



【写真12】（前稿補遺）